

アメリカ合衆国の発展

今回学ぶこと

今回は、アメリカ合衆国が独立から一世紀の間にかなる発展を遂げたかを学ぶ。アメリカは19世紀末までに領土を太平洋岸まで拡大した。しかし、その過程では、先住民が居住地から追い出されて人口を激減させ、奴隷制の拡大をめぐる南北戦争が勃発するなど、悲惨な出来事も多く起こった。南北戦争後、奴隷制は廃止されるが、黒人に対する差別は根強く残ることになる。そして世紀末、産業化するアメリカはスペインとの戦争をきっかけに植民地を持つ帝国となった。

調べておこう・覚えておこう

- 19世紀初頭のアメリカでは、多くの先住民部族が大陸の各地に居住していた。どのような部族が、どういった生活をしていたのか、調べてみよう。
- 南北戦争勃発前に、奴隷制の擁護派と反対派が戦わせた議論の内容を調べてみよう。また、奴隷の人たちがどのような生活を強いられていたのか、小説や歌などから探ってみよう。
- 南北戦争後人口が急速に増大した都市名を挙げ、そこに住む人たちがどのように生活していたかを調べてみよう。また、急増する移民たちがどの地域からアメリカに渡ってきたかも調べてみよう。

西部開拓と先住民の苦悩

19世紀に入ると、アメリカはフランスからルイジアナを、スペインからフロリダを獲得して領土を拡大した。またメキシコから独立したテキサスを併合した後、1846年にはメキシコと戦争をし、ニューメキシコからカリフォルニアに至る広大な土地を手に入れる。アンドルー・ジャクソンが大統領となった1830年代には、白人男子の普通選挙制が導入され、民主主義の発展が見られた。しかし、「マニフェスト・デスティニー（明白な天命）」という言葉で正当化されたアメリカの領土拡大は、先住民の居住地を奪い、強制移住を強い、先住民人口の急減をもたらす残酷なものでもあった。とりわけジャクソン大統領は、インディアン強制移住法を成立させるなど強硬策をとったことで有名である。

南北戦争 ～奴隷制と統合をめぐる戦い～

アメリカでは西部の開拓に伴って、南部と北部との対立が次第に深まっていった。大農園で綿花やタバコを栽培し、イギリスなどに輸出していた南部では、奴隷制と自由貿易が支持されたが、工業化の進んだ北部では保護貿易が求められた。新たに連邦に加わる州を奴隷州とするか自由州とするかをめぐる対立は、1850年代以降激化し、1860年、奴隷制拡大に反対する共和党のリンカンが大統領に当選すると、南部諸州は連邦からの離脱を決め、アメリカ連合を結成した。翌年、南部の離脱を認めない北部と南部との間で軍事衝突が勃発、南北戦争が始まった。

当初は連邦の維持を戦争目的に掲げていたリンカンは、戦争が長期化すると、南部を国際社会から孤立させるために奴隷解放を宣言する。戦争は1865年、北部が勝利して終わるが、民間人を巻き込む多くの犠牲者を出した。奴隷は解放され、憲法修正で黒人の市民権も認められたが、北部による占領の終了後、南部では黒人を政治から締め出し、公共施設で隔離するなど、差別はその後もなくならなかった。

飛躍的な産業発展へ

19世紀後半のアメリカでは、飛躍的な産業発展が見られた。それを支えたのは、鉄道や蒸気船などの交通網の発達と、さまざまな発明、そして実業家や銀行家の存在である。広大な大陸を東西に結ぶ大陸横断鉄道は1869年に完成し、その後も各地で鉄道の敷設が進んで農産物や工業製品の大量輸送が可能になった。エジソンによる蓄音機や白熱電球の発明、グレーム・ベルによる電話機の開発など、電気・通信などの分野でも目覚ましい発展が見られた。そして、鉄道王ヴァンダービルト、鉄鋼王カーネギー、石油王ロックフェラーなどの実業家たちが、巨大産業を作り上げた。ただし、このような発展に批判の声がなかったわけではない。

拝金主義に染まった時代を、作家マーク・トウェインは「金ぴか時代」とやゆした。実際、このような産業発展を下支えしたのは、都市に集った移民や貧しい農民、黒人たちであった。彼らの多くは低賃金で長時間労働を強いられ、また子どもや女性も工場に駆り出され、劣悪な環境で働くことになった。